



**GOOD DESIGN
AWARD 2017**

**BEST
100**

2017 年度けいじゅヘルスケアシステム業績集発刊にあたって

2017 年度を振り返ると、政治の面では、2018 年度にもその影響が引き続く「忖度」「北」「野党分裂」の年だったようだ。

一方、経済的には多くの大企業は空前ともいえる好決算に湧きながらも、働き方改革や人口減と相まって人材不足感が大きな影を落とす年ともなった。

医療・介護・福祉業界でもまた同様に働き方改革の余波は人材面からその経営の継続性を脅かす事態となってきた。特に、医師の働き方の議論は、地域医療の存亡の大きな要素となる危惧を与えている。

これら背景の下で、すべての業種にとって生産性向上がカギとなり、そのための ICT, AI, ロボットなどの最新技術をいかに導入するかが重要となってきたと言えよう。

法人の単年度方針として『今こそ QOL 経営を実践しよう』とし、Quality of Life の Life に地域住民の生命、生存だけではなく生活や人生にもわれわれが関わるべきとした。これまでのコールセンター事業や『樂のり君』サービスに加えて 9 月からは、かねてから提唱してきた PHR (Personal Health Record) である『カルテコ』の導入を実現した。これは、患者個人に自身の医療情報を渡すことによって、患者が情報管理の中心となり、患者を介して医療・介護ばかりではなく薬局やその他サービス事業者と連携を可能なものにするものである。

一方、けいじゅヘルスケアシステム、特に恵寿総合病院において医師の確保で難渋した。特に、外科手術の多くを占め、また高齢社会における多くのニーズをこなす整形外科の医師数の減少が大きな問題となった。2018 年 4 月以降には増員によって回復はしたものの、今季下半期の手術数などで予期できぬ影響を与えた。しかしながら、その分を内科系領域での患者数増加でカバーし、年間を通して好調な経営状態となった。

また、われわれのこれまでの取り組みに対してグッドデザイン賞 2017 における Best100 賞、審査員特別賞（未来づくり賞）等を受賞し、グッドキャリア企業アワード 2017 ではイノベーション賞を受賞した。これらによって医療以外の業界との多くの接点が生まれ、より効率的で洗練されたサービス提供や働き方の仕組みを導入する土台ができたと言っていいだろう。

9 月には第 59 回全日本病院学会 in 石川を『大変革前夜に挑め！ ～今こそ生きるをデザインせよ～』というテーマで、私が学会長として金沢市で開催した。全国から 3,300 名にのぼる病院関係者が一堂に会した。『生きるをデザインせよ』に病院こそ地域住民の生活支援にかかわるべきとの QOL 経営のメッセージを込めた。この全国学会に法人から多数の発表演題を出し、また職員は学会運営スタッフとして全国の病院の取り組みを知ることができたと言える。

縮小していく地域の中で、これからも自らの変化として組織の改編、さらには新規知見の積極的な導入をしながら、われわれの立ち位置をより強固なものにしていきたい。

2018 年 6 月吉日

けいじゅヘルスケアシステム 理事長

神野 正博